

農 研 速 報

2019 年 8 月 29 日発行
茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室
〒301-0816 茨城県龍ヶ崎市大徳町 3974
TEL: 0297-62-0206 FAX: 0297-64-0667

大豆の生育状況(8月27日現在, 龍ヶ崎市)

地 域 名	生育ステージ		生育(作柄・品質)概況	備考
	本 年	対平年遅速		
茨 城 県 (龍ヶ崎市)	<p>里のほほえみ 莢伸長期～ 子実肥大期</p> <p>納豆小粒 開花終～ 着莢期</p>	<p>4 日遅い</p> <p>2 日遅い</p>	<p>龍ヶ崎市における 7 月第 6 半旬～8 月第 5 半旬の気象および大豆の生育概況は、下記のとおりである。</p> <p>【気象】 気 温: 平均気温は平年より 1.6℃高かった(図 1)。 降 水 量: 平年比 41%とかなり少なかった(図 2)。 日照時間: 平年比 123%と長かった(図 3)。</p> <p>【生育】 7 月の低温により、開花期は平年に比べ、「里のほほえみ」が 8 月 4 日と 4 日遅く、「納豆小粒」が 8 月 9 日と 2 日遅かった。7 月第 6 半旬以降は高温となり、8 月 27 日調査時点の地上部の生育は、「里のほほえみ」は概ね平年並となったが、「納豆小粒」は平年を下回った。このことから、「納豆小粒」の方が、7 月の低温による生育遅延の影響が大きかったと推察された。品種別の調査項目の平年値との比較は以下のとおり。</p> <p>里のほほえみ: 分枝数は多かったが、主茎長、主茎節数および茎の太さは平年並となり、地上部生体重は平年並であった。一株莢数と一株莢重はともに平年並であった。</p> <p>納豆小粒: 分枝数は多かったが、主茎長は平年よりかなり短く、主茎節数はやや少なく、茎の太さは平年並のため、地上部生体重はやや軽かった。また、一株莢数はやや少なく、一株莢重はかなり軽かった。これは、着莢と莢伸長が遅れているためと推察された。</p> <p>写真 1 に 8 月 27 日時点の所内大豆の生育状況を示した。</p> <p>【注釈】 1) 対平年遅速は開花期の本年値と平年値の差による。</p>	<p>●病虫害防除をこれまでに 3 回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・莢害虫防除: 8/6, 8/19, ・紫斑病防除: 8/19, ・葉焼病、べと病防除: 8/6 <p>○紫斑病の防除適期は、開花期の 20～30 日後頃である。</p> <p>○「里のほほえみ」は、べと病が発病しやすい傾向があるため、防除に努める。</p> <p>○病虫害の情報や防除対策は、病虫害防除部のホームページを参照する。 (http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/)</p>

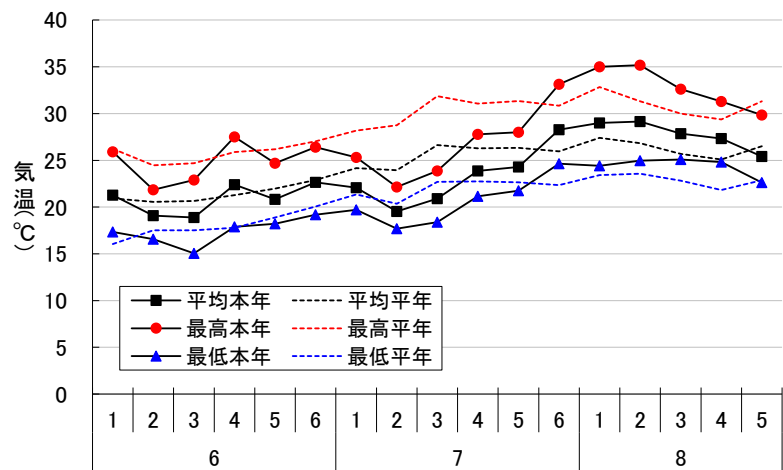


図1 半旬別最高・最低・平均気温の推移 (月・半旬)

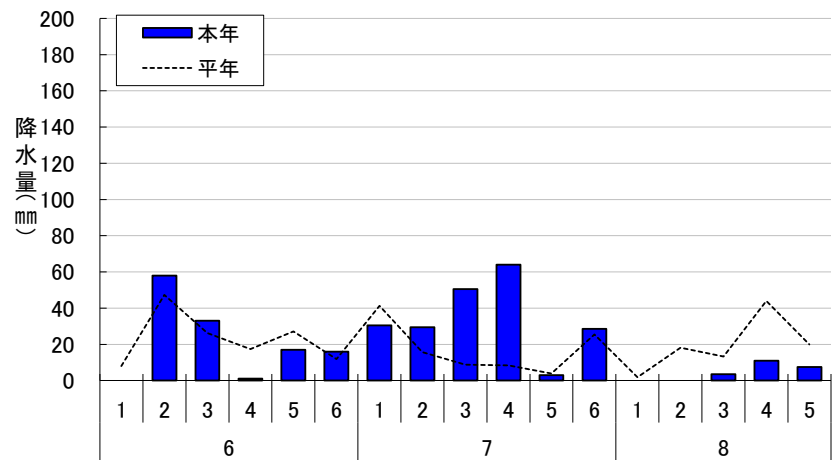


図2 半旬別降水量の推移 (月・半旬)

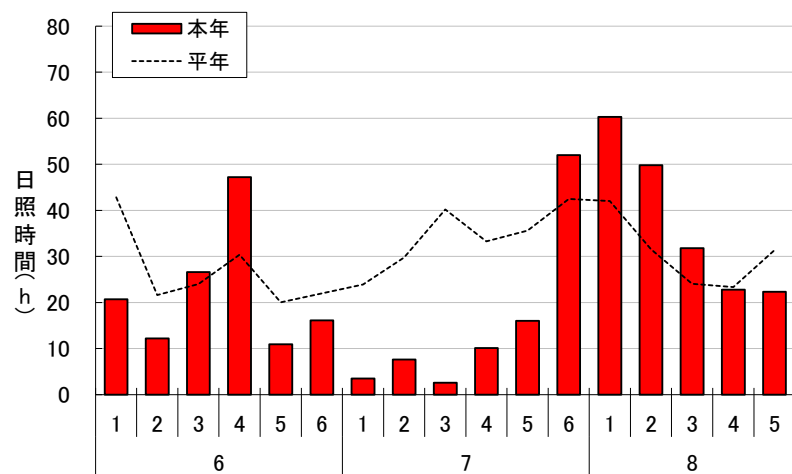


図3 半旬別日照時間の推移 (月・半旬)

表 1 輪換畑における大豆の生育（龍ヶ崎市，水田利用研究室）

品 種	開花期			主茎長			主茎節数			分枝数			茎の太さ		
	本年 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (節)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (mm)	前年比 (%)	平年比 (%)
里のほほえみ	8.04	7.30	7.31	63	96	105	14.1	97	98	5.2	137	120	13.3	93	105
納豆小粒	8.09	8.06	8.07	62	75	76	15.7	92	90	8.1	130	115	10.6	85	96

品 種	地上部生体重			一株莢数			一株莢重		
	本年 (g/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g/株)	前年比 (%)	平年比 (%)
里のほほえみ	251.5	93	98	84.5	139	99	25.9	249	102
納豆小粒	258.5	90	90	143.2	126	94	5.4	156	78

【耕種概要】

- 1) 圃場来歴：転換2年目（前作麦）
- 2) 播種期：6月19日
- 3) 播種密度：11.1株/㎡（畦間60cm，株間15cm）1本立て
- 4) 基肥：N-P₂O₅-K₂O＝0.3-1.2-1.2kg/a
- 5) 中耕・培土：7月26日（初生葉節まで実施）

【注釈】

- 1) 生育調査は8月27日に実施
- 2) 茎の太さは子葉節と初生葉節の中間で最も太い部分を測定
- 3) 地上部生体重は子葉節で切断した地上部の重さ

【平年値】

- 1) 「納豆小粒」は平成26年～平成30年産の5ヶ年の平均値
- 2) 「里のほほえみ」は平成27年～平成30年産の4ヶ年の平均値



写真 1 所内大豆の生育状況（8月27日撮影，左から里のほほえみ，納豆小粒）